

じるように両手をびったりと合わす。

開会 会——開ける（開らく）

快感 先づ、「嬉れしい」（面白い）と同じ手まねをして、次に五指の指頭を上になした掌を頬すれすれに向け、中指の指頭でこめかみをもむように上へ伝い上らせて行く。スーと神経がこめかみを走る官能的な快感を味わしたものだ。

海岸 掌を下向け、五指の指頭を右になした左手（陸地と見なす）。掌を上向け、五指の指頭を前方になした右手（海面と見なす）を、その五指をこまかく動かして（波打たせる）左手の指先から五指の背の上を這り上げて行き右へ引き退げる（波が打寄せては引く「海岸」「渚」「浜辺」の表現）。

会議 打合せ（相談）——会（会合）

海軍（海兵）セーラー服の襟を表わす。即ち、両手の人差指と中指の指頭を下になし

て、左右夫々胸の上にびったりとつけ、同時に上へ斜めに撫で上げ肩越しに後へ出す。二本の線で縁取られた襟、「海員」とも同じ。

會計 掌を上に向け五指の指頭を右になした左手を算盤と見なし、その掌の上に右手の五指の指頭をつけ、算盤の珠を弾く真似をする。「勘定」「計算」の手まねともなる。

解決 左手の上に向けた掌の上に、拳にした右手の手甲の方を叩きたき附す。そうだ、「それだ」と思わず手を叩たく自然な身振から来たものだ。「決めた」となる。

蚕 小指をまるく曲げて、その指頭を口もとにして、そこから糸を引くように前に出して行く。小指を曲げるのは虫を表わし、口から糸をつむぎ出す「蚕」。「絹糸」「絹」の手まねともなる。

悔恨 悪るかった——遺憾。

解散 先ず「会（会合）」の手まねをしてから、その両手を左右に分離して、掌を前方斜めに向きかえて、更に左右に離して行く。

解釈 意味——説明

会場 会合——所

改心 悪るかった——御免御免——心変える。

外套（オーバー） 掌を下に向け、五指の指頭を斜め下にさした左手の手首の上に、掌を上に向けた右手を十字にのせたまま、くるとその掌を下向けにする。外套の袖口がダブルに折返しになっているのを表わしたものだ。

介抱（看護） 匠（右手で左手の脈をとる）

愛——（可愛がる）

会話 五指の指頭を集め合わせた両手を向い合わせて、交互にぱつと五指を開いて、手の中から何にかを放なち合うようにする。両手を対坐した二人として、口から互に「言葉」を放なし合う様。

買う 「売る」と逆の運動。即ち掌を上に向け五指の指頭を右にさした左手（商品）。その手前に「金銭」を表わした右手。その右手（金銭）を前にさし出すと同時に左手（商品）を胸もとに引き寄せる。

却って 五指の指頭を上にした両手を背中合せに（手甲を合わす。即ち親指をのぞいた四指の背を合わす）してから両手を左右に離す。「反対」の手まねともなる。

帰える 指頭を上にした人差指を前方から胸もとへ引き寄せる。

○「家に帰る」

胸の前で先ず「家」の手まねをして、左手をそのまま残して置いて、右手の指頭を上にした人差指を前方から左手に引き寄せらる。

変える（変わる）（代り） 人差指の指頭を前方にさして、掌を上に向けた両手。右手を